

ハザードマップと防災ロゲイニング

日本を襲う自然災害

▼日本は世界でも例をみない、いろいろな種類の自然災害に見舞われる国です。雨が早く急な山が多いことは豊かな風景を生み出しますが、同時に水害・土砂災害が起こります。プレートの活動は火山を生み、それが観光地や温泉を生み出しますが、火山噴火や地震や津波にもつながります。私たちには災害と共存する「知恵」と知識が求められます。

(写真は東日本大震災の津波で被災した女川町)



ハザードマップとは？

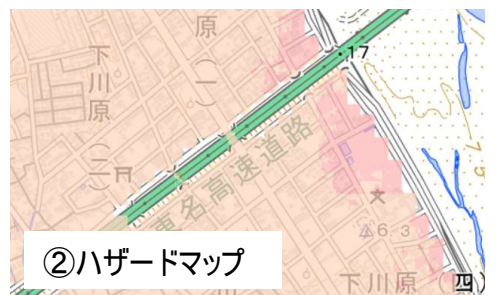
▼地形や過去の災害から、災害が発生した時、どこで被害が発生するかを予測した地図。全国のハザードマップを「ハザードマップポータル」で見することもできます(中央のQRコード)。自分たちの街のどこが可能性が高いのか？を知ることで、災害への心がけを高めることができます。

▼右の図は川原地区の①普通の地図と②ハザードマップ(ここでは、ロゲイニングの地図で示せなかった洪水)です。でもどうしてこの地区は

どこも洪水の被害に遭う可能性があるのでしょうか？

③は地形分類図といって、かつてそこがどのような地形だったかを示したものです(川原地区)。青い筋は安倍川の支流の跡、黄色は自然堤防といって川沿いの少し高い場所、うぐいす色ははらん平野といって、洪水で運ばれた土砂が積もった平坦な場所です。安倍川に堤防ができる前には川は小さな支流として至るところを流れ、洪水の時には土砂を積もらせていたのです。過去の地形を見ると、この地区が堤防等の防災の努力がなければ、いつ洪水に見舞われてもおかしくないことが分かります。

▼QRコードを使って、自分たちの住んでいる街のハザードマップをみよう→



防災ロゲイニングとは

▼一般の多くの人にとって、災害は来るかもしれないくらいものかもしれませんが、しかし、**確実な知識や考え方を持っていなければ、いざという時、自分や身近な人の命を守ることはできません。**ゲーム感覚で楽しみながら地域を知り、災害上の問題点や防災上活用できるものを知ることができれば、身を守ることにつながる。そのために考え出されたのが防災ロゲイニングです。

(防災ロゲイニングは高校教員の美澤綾子氏が2012年の地域安全学会にそのアイデアを発表しています。また今回の専用マップはO-Supportの小泉成行氏に作成を依頼しました)

「その時」に備えよう：

ハザードマップとロゲイニングを防災生かすには

- ①ハザードマップで、災害リスクを知ろう(でも過信は禁物。ハザードマップはあくまで「想定した大きさの災害が起こった場合」。
- ②防災ロゲイニングや街歩きで、地域や地形の特徴を知ろう(どんなところに災害リスクがあるか)
- ③自宅に危険性があるなら、どんな時にどこに逃げればいいのかを考えておこう。役に立つサイトが、内閣府が発表している「避難判断フロー」→QRコードまたは、<https://www.bousai.go.jp/pdf/line.pdf>



解説執筆：静岡大学防災総合センター副センター長村越真
小学館「ドラえもん探究ワールド 自然の脅威と防災」は漫画仕立てで、小学生でも楽しみ、中学生にも必要な自然災害の知識を学べる